

資料②

【指導案作成】

① 指導案の意義と一般的な構成



指導案って、何をどのように書いたらいいのだろう？
そもそも、何のために指導案を書くの？

【指導案の意義】

授業者は指導案を書くことにより、自分自身の授業に対する意図が明確になり、自信を持って授業に臨むことができます。このことは子供に確かな学力を身に付けさせる上でとても重要なものだといえます。指導案の中で次のような点が明確になるようにしましょう。

【指導案を作成する上での大切なポイント】

- ・その授業がどのようなねらいで行われるか
- ・どのような指導の工夫をして1時間のねらいに到達するのか
- ・子供の課題や理解度の差にどのように対処していくのか



第〇学年 〇〇科学習指導案

〇〇〇〇年〇月〇日

(曜)

〇〇〇〇教室

指導者 〇〇 〇〇

- 1 単元(題材)名 *教科によっては、「題材」とするものもある。例えば、音楽、図画工作、美術、技術・家庭、特別活動など。社会は、「小単元」とするものもある。道徳は「主題名」としている。
- 2 単元(題材)について
 - (1) 単元(題材)観
 - (2) 児童(生徒)観
 - (3) 指導観
- 3 単元(題材)の目標
- 4 単元(題材)の評価規準
- 5 指導と評価の計画(全〇時間)
- 6 本時の学習
 - (1) 本時の目標

児童生徒の実態をスタートに、(1) 児童(生徒)観 (2) 単元(題材)観 (3) 指導観の順に書くパターンもあります。



② 指導案作成のためのポイント

単元観・題材観

・本単元で身に付けるべき力や、単元や題材の価値や系統性等を記述します。

- * 単元や題材を通して身に付けるべき力
- * 単元や題材の価値や系統性
- * 使用する教材、題材の持つ特性や特徴

児童観・生徒観

・学習歴や本単元に関わる子供の姿、客観的な実態を記述します。

- * 本単元に関わる学習歴と学んだ内容
- * 身に付けるべき力における子供の実態
- * 学習を進める上での課題点や留意する点

指導観

・上の2つを踏まえ、単元全体を見通して記述します。

- * 単元目標を達成するための指導の工夫
- * 個別の支援が必要な児童生徒への具体的な支援の手立て
- * 他教科や学校生活・社会生活とのつながり

単元の目標

・単元を通じた目標や評価規準を記述します。

- * 単元を通して身に付けるべき力
1文でまとめて書く場合と、3観点ごとに書く場合がある。文末は、「～できる。」「～に気付く。」などと学習者を主体として記述するが多い。

単元の評価規準

- * 子供の姿どのような学習状況となっていれば、単元の目標を達成できたと判断するのかを記述する。文末は、「～している。～しようとしている。」など

指導と評価の計画

- * 毎時の主な学習活動、指導上の留意点、評価とその方法
単元の評価規準で示した評価の漏れがないように計画する。

本時の目標

・本時における目標や学習活動の具体を記述します。

- * 本時で身に付けさせたい力と学習活動の具体を簡潔に記述する。『単元目標』と『指導と評価の計画』との整合性にも留意する。

本時の展開

- 学習活動**
 - * 子供が実際に行う活動
子供視点の文章で書く。予想される子供の言動もこの欄に起こす。
- 指導上の留意点**
 - * それぞれの学習活動で行う具体的な指導・支援の手立てや配慮
- 評価**
 - * 原則、B基準となる子供の姿とその基準に達しない子供への手立て

③ 指導案の記述例

指導案作成の参考資料として、「[教師のしおり（佐賀県教育委員会）](#)」や佐賀県教育センターのホームページに指導案がたくさんあります。是非、活用してください。

<https://www.saga-ed.jp/contents/kouza-jyugyou/> <https://www.saga-ed.jp/contents/all-over-japan/>

「単元（題材）観」、「児童・生徒観」について

「単元（題材）観」って、どんなことを書けばいいのだろう？
「児童（生徒）観」は、子供の日頃の様子を書くところだな。

「単元観」は、本単元で身に付けるべき力、単元や題材の価値や系統性を記述します。
「児童（生徒）観」は、学習歴や本単元に関わる子供の姿、客観的なデータで表れた課題点や留意点を書きます。では、具体例を見ていきましょう。



【単元（題材）観】

【記述例】本単元は、学習指導要領の「B書くこと」の内容（1）イ「自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること」、オ「文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけること」を受けて設定したものである。

この題材は、友だちに知らせたいものや出来事についてメモをし、それを基に簡単な組み立てを考えながら書き進めていくことができるようになっている。簡単なメモから詳しいメモに書き換えることで、題材に必要な事柄を集め、一人一人の気持ちや経験を大切に、楽しんで書くことができる。さらに、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることで、自分の伝えたい内容を明確にしたり、「はじめ - 中 - おわり」などの構成の良さに気付かせたりすることもできる。また、書いた文章を読み合い、互いに感想を伝え合うことで、自分や友だちの文章のよいところを見つけることもねらいとしている。

書く活動としては、2年上「かんさつ名人になろう」で詳しく書く学習をしたことを受け、本教材で簡単な構成について学習し、2年下「お話のさくしゃになろう」では、それらの既習事項を生かしてお話を作る学習へとつなげていく。

【児童（生徒）観】

【記述例】本学級の児童は、これまでの学習で観察して気付いたことを詳しく書くことを経験している。文章を書くことについては、普段から日記を書いたり、生活科の観察日記を書いたりすることで慣れてはいるが、書く内容や量に個人差が大きい。また、文字を書き間違えることも多く、書くことを苦手とする児童が多い。学習中に集中して取り組むことができない児童も数名いる。

また、○年度の佐賀県学習状況調査の第○学年の国語の結果において、「必要に応じて事例を挙げて書く」（県正答率 46.8 無解答率 3.7）、「メモを基に、書こうとすることの中心を明確にして書く」（県正答率 46.3 無解答率 6.2）となっている。どちらも県の正答率が低く、さらに無解答率の割合も高いという結果がでていた。このことから、メモをしっかりと書き、それを基に構成を考えて文章を書くことに課題がみられる。本単元は、児童にとってメモを基に、構成を意識した文章の書き方を習得するために有効なものとする。

「指導観」について



「指導観」って、どんなことを書けばいいのだろう？

「指導観」は、単元（題材）観と児童（生徒）観を踏まえ、目標を達成するための指導や支援の手立てを具体的に記述します。単元（題材）全体を見通して記述することが大切です。



【記述例】 本単元では、まずは書きたいという気持ちをもつことができるようにするために、教師が事前に行った「〇〇小じまんブック」のモデルを見せる。児童に、同じような「△△小じまんブック」を作って、それを他の学校の友だちにも見せるということを伝え、自分たちも作ってみたいという意欲を高め、最後まで関心を持って書き進めることができる手立てとする。

第一次では、子供達が単元への興味をもつことができるようにするために、まずは学校の自慢できることについて考え、発表する場を設ける。そして完成モデル文を見せ、本単元に対する興味・関心を高めることで、完成までのゴールをイメージするとともに、「じまんブックを作りたい」という気持ちが高まるようにする。次に、この単元ではメモを活用して書くことを知らせ、全員で意見を出し合いながら学習計画を立て、本単元の見通しを持つことができるようにする。そして、メモというものがどういうものかに気付いた後、自慢したいことのメモを書く。そのメモについては、その後の授業につなげていきたい。

第二次では、まず、メモを詳しくすることを学習する。その際、自分が最初に書いたメモを用い、学習後にはメモが増えたことに対する満足感をもつことができるようにしたい。そのため、詳しくするには五感を使うとよいことに気づき、その視点でメモを増やし、膨らませるようにしたい。その上で、メモを詳しくすることの良さにも気付くことができるようにしたい。次に、文章を分かりやすく伝えるための構成について学習する。初めに「はじめ」「中」「おわり」の構成について教え、自分のメモを使って構成を見直す活動へとつなげていく。そうすることで、自分のメモが更によりよくなり、伝えたいことが明確になっていることに気づき、「早く書きたい。」という気持ちを高めていきたい。その構成メモを使って文章を書いた後、推敲する。そこでは、文章を書いた後は何度も読み直す大切さに気づき、習慣化につなげたい。推敲したものを清書する際は、他の学校の友だちも読むということを伝え、丁寧に書こうという意識を高める。

第三次では、書き上げた文章で交流会をするが、その際は読む視点をもつことで、感想を伝えやすくする。この感想交流を通して、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけたり、感性や情緒を養ったりすることもねらいとしたい。

単元を通して、作文を書く際には、メモをとることの大切さや便利さにも気付くことができるようにしていきたい。

単元（題材）観、児童（生徒）観、指導観の記述例として、「小学校 国語」の例を挙げていますが、その他の教科の文例が知りたい場合は、西部教育事務所「学力向上のための手引き（第2版）」を参照してください。[学力向上のための手引き | 西部教育事務所 \(education.saga.jp\)](http://education.saga.jp)



「単元の目標」、「単元の評価規準」について



「単元の目標」で書くことは分かるけど、「単元の評価規準」は、何を書いたらいいのだろう？

「単元の目標」は、単元を通して身に付けるべき力を記述します。3観点ごとに書く場合と、1文にまとめて書く場合があります。

「単元の評価規準」は、単元目標の裏返しと考え、単元目標をより具体的にして記述します。



【単元の目標】

【観点ごとに記述した単元の目標例（国語）】

- (1) 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。(知識及び技能)
- (2) 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考慮することができる。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 自分の考えとそれを支える事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思考力、判断力、表現力等)
- (4) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)

【単元の評価規準】

【記述例】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主語と述語の関係、修飾と被修飾との関係、接続する語句の役割、段落の役割を理解している。	①「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。 ②「書くこと」において、自分の考えとそれを支える事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。	進んで、自分の考え方が伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって、説明する文章を書こうとしている。

評価規準作成の手順は、下記の URL を参照してください。

- ・ 国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための参考資料」

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>

- ・ 佐賀県教育センター「学習評価の進め方」

<https://www.saga-ed.jp/contents/hyouka/>



「指導と評価の計画」、「本時の指導」について

指導と評価の計画では、毎時ごとの主な学習活動やねらい、指導上の留意点、評価規準、評価方法などを記述します。下記に示している記述例以外にも、様々な書き方があります。

詳しくは、国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための参考資料」
<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryu.html> を参考にしてください。



【記述例】

5 指導と評価の計画

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準（・）評価方法等（□）
4	○夏休みの思い出を友達に報告するためにはどのような順序で話したらよく伝わるかを考えながら、ワークシート①の該当箇所にカードを置き、その理由を書く。	・物事や対象についてどのような順序で説明すると伝わりやすくなるか（例えば、経験した順に並べるなどの時間的な順序、感動の大きかったことの順に並べるなどの事柄の順序）について例を示す。	【思考・判断・表現①】 ワークシート① ・カードの並び順とその順序にした理由の確認

6 本時の指導（記述例 4 / 9）

- (1) 本時の目標（本時の学習で子供に身に付けさせたい事柄について具体的に記述します。
 また、子供の学習目標として書くことが一般的です。）

【記述例】伝えたいことを明確にするために、メモを詳しくすることができる。

- (2) 本時の展開（項目は教科・領域や学校ごとによって変わってきます。一般的な例を提示します。）

学習活動	(○) 指導上の留意点 (◆) 評価	備考
<p>*この欄に学習のめあてを書く。子どもに示す形で本時の活動目標を書くことが多い。</p> <p>*学習活動には、子供の立場から各時間の主たる活動を書く。 *大項目：1 2 3 … 中項目：(1)(2)(3)… 期待する子供の発言等は「・」で起こす。 *子供側からの行動表現で書くようにする。 “振り返る。読む。書く。話し合う。”など</p>	<p>*指導上の留意点には、学習活動における手立てや押さえておく事柄を書く。 *教師の指示や働きかけなど教師側からの表現で書く。 “見通しをもたせるために～という支援をする。気付かせるために～する手立てを取る。”など</p> <p>*評価規準は『5 指導と評価の計画』の評価規準に対応させて記述する、基準に届かない子供に対する手立てを具体的に書く。 評価規準例 「筆者の訴えたいことを、本文中のキーワードを使って、条件に合わせてまとめることができる。[思]ワークシートの記述内容」 → キーワードを提示したり、筆者の主張部分に線を引いてみるよう促したりして理解につなげる。</p>	<p>*使用するICT機器 *教科書の資料</p>
<p>*この欄に学習のまとめを書く。めあてとの整合性を図り、設定する。</p>		
<p>*学習を「振り返る」時間を設ける。</p>		

「振り返る」時間を大切にしたいものです。子供自身が「今日めあてを達成できたかな？何が足りなくて、これから何を頑張ったらいいんだろう？」と自分を客観視することが大切です。それが次の学習意欲につながり、子供自身が学び始める第一歩となります。

